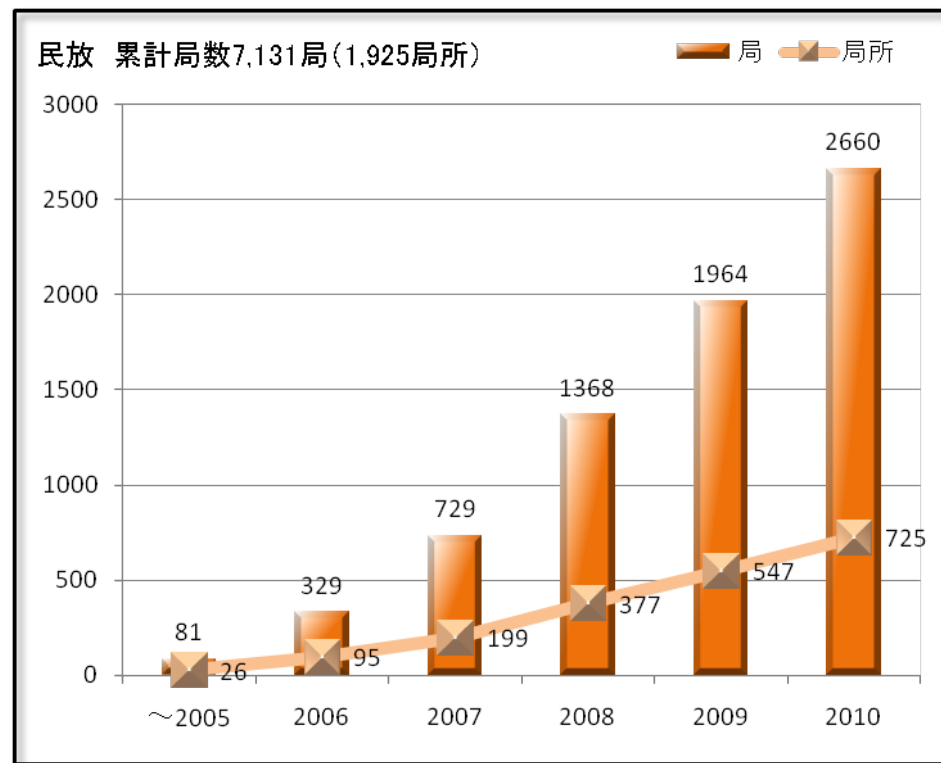
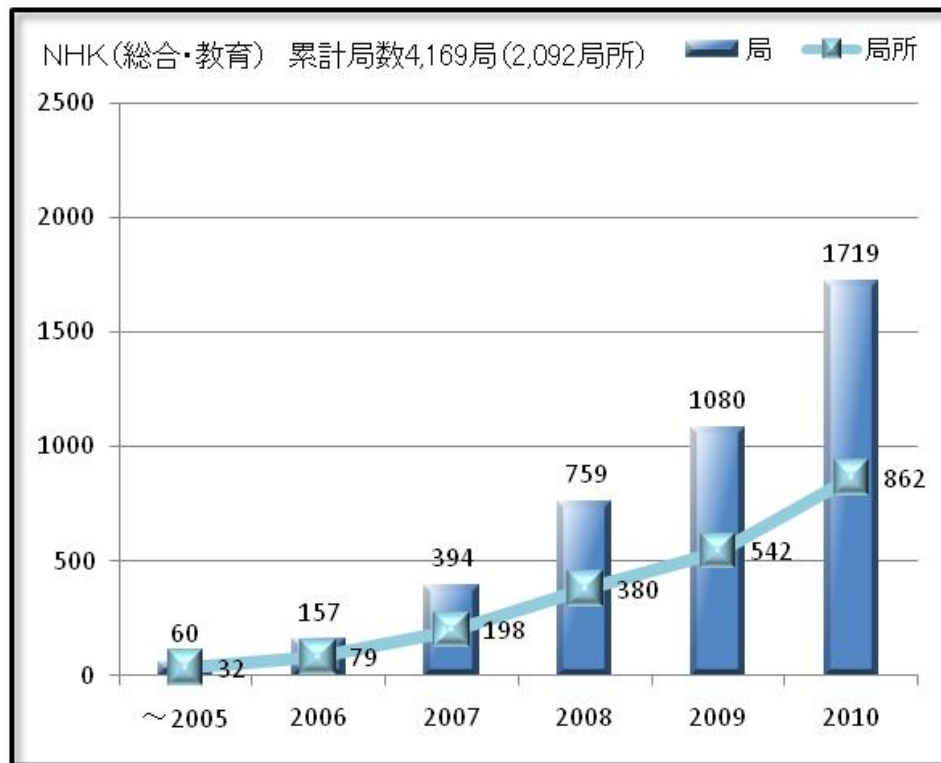


アナログ放送の停波の状況

総務省

- 2010年末までに中継局ロードマップ(2006年4月14日初版公表)掲載局の整備を予定通り完了
 - 掲載局 11,188局(NHK4,129局、民放 7,059局)は、2010年末までに11,178局(NHK4,125局、民放 7,053局)開局
 - 開局 ※沖縄県の南大東局、北大東局計10局(NHK4局、民放6局)は、2011年7月23日開局(海底ケーブル(伝送路)の工事のため)
 - その後、難視対策等のために 2010年末までに122局(NHK44局、民放78局)開局
- 2012年3月末現在 11,632局(NHK4,277局、民放7,355局)開局

<デジタル中継局整備状況(～2010年)>



注) 局所数の合計については、同一局所内において、メディア間で開局時期が異なる場合があるため、局所数の各年次別の内訳の単純集計と局所数の合計とは一致しない。

デジタル化への環境整備② ～受信環境の整備状況～

○ アナログ放送終了までに受信環境の整備を完了し、視聴者に大きな混乱もなくデジタル放送への移行を実現

	44都道府県 (2011年7月24日移行)	東北3県 (2012年3月31日移行)
辺地共聴	123.8万世帯(18,601施設)	8.9万世帯(1,588施設)
自主共聴	74.5万世帯(11,505施設)	4.3万世帯(890施設)
NHK共聴	49.3万世帯(7,096施設)	4.6万世帯(698施設)
受信障害共聴	802万世帯(87,390施設)	27.6万世帯(3,324施設)
新たな難視	27.9万世帯	2.8万世帯
恒久対策実施済み	13.6万世帯	1.3万世帯
暫定衛星放送等 ^(注)	14.3万世帯	1.5万世帯
集合住宅共聴(推計)	2,107万世帯(204.5万施設)	63.4万世帯(90,240施設)

(注) 実際の衛星利用世帯は、9.2万世帯(平成24年3月現在)(その他は、対策辞退世帯、空き家等)

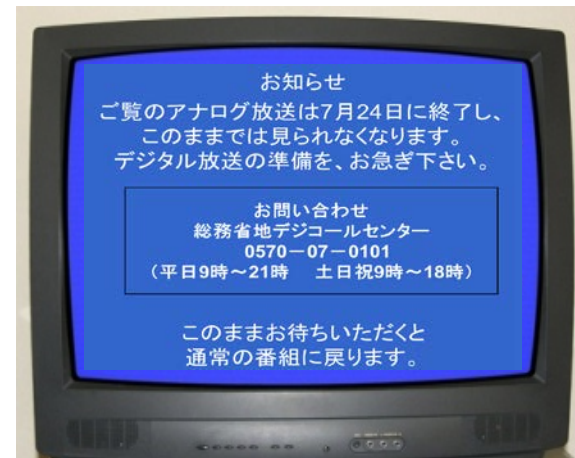
(1) 6月30日までの対応

アナログ放送における
常時告知スーパーの訴求力強化



- 各地域の課題や取組に応じた文言を表示
(アンテナ工事の早期実施、チューナー支援
など)

アナログ放送画面等を通じた徹底周知の実施



【民放】

- 「ブルーバック」のお知らせ画面等を用いたアナログ／デジタル非サイマルPRスポットを放送
(在京民放キー局では、5月第4週を「強化ウィーク」と位置付け、各社計10分のPRスポットを放送)

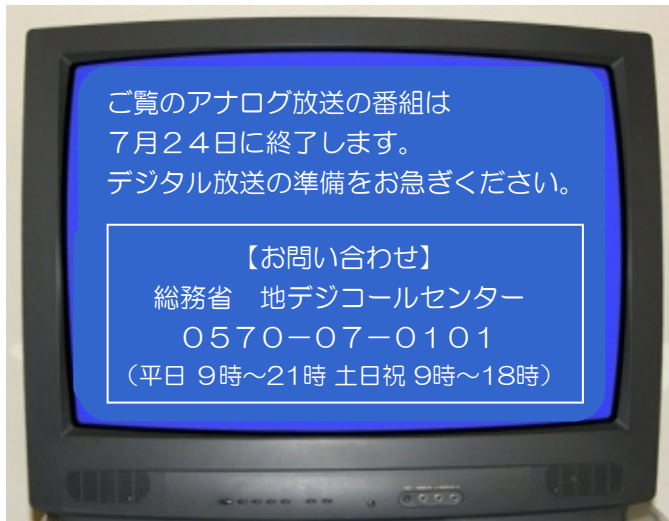
【NHK】

- アナログ放送のスポット枠やミニ番組枠を順次、デジタル化周知に移行

(2) 7月1日以降の対応

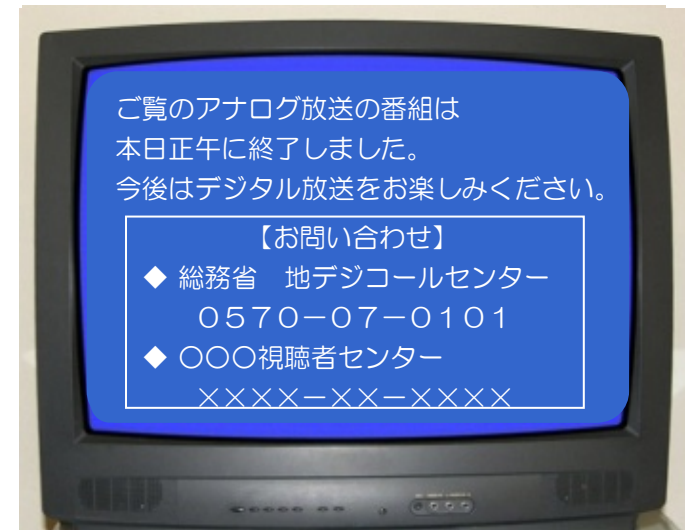
7月1日～24日正午

カウント
ダウン
表示



※定期的にブルーバックの「お知らせ画面」を挿入

7月24日正午～
ブルーバックの「お知らせ画面」に全面移行
(24時までには停波)



7月25日～



地デジコールセンター

- ・アナログ放送終了に向け、順次相談体制を強化した後、停波後は順次縮小。
- ・185席(2010年12月)→370席(2011年6月)→**最大1200席規模**(2011年7月)、**7月下旬は24時間体制**で運用→200席規模(2011年8月) 平日9-21時(土日祝日9-18時)



電話相談

地デジ臨時相談コーナー



- ・6月15日～8月26日の約2ヶ月間運用
- ・**全国約1600箇所**、市町村役場等に設置
- ・対面による窓口での個別の相談・サポート(約800か所)、デジサポや販売店等への取り次ぎ、臨時相談コーナーからの巡回相談、低所得者へのチューナー即時給付等



※地域の電器店(全国電商連加盟)が「まちの地デジ臨時相談コーナー」として対応

高齢者、障がい者等の未対応世帯

対面相談

※「地デジボランティア」や「地デジ臨時相談コーナー」等で、専門的な相談があった場合には、各地のデジサポへ取り次ぎ、地デジサポーター等から専門的に支援。

地デジボランティア活動

- ・2011年1月から全国展開(**40万人規模**)
- ・全国の地域で活動している団体に協力いただく(ボーイスカウト、母親クラブ、自治体等関係者、ボランティア団体、民生委員等)
- ・地デジ対応を促す声かけ・念押しや資料の配付
- ・コンビニエンスストア(ローソン約8600店舗)でも実施(~8月15日)
- ・お困りの世帯をデジサポへ御案内

声かけ・念押し、資料配付等



専門的支援

地デジサポーターによる戸別訪問

- ・地域の電器店、ケーブルテレビ事業者が「地デジサポーター」(**約2万人**)として、デジタル化をサポート
- ・21・22年度で合計190万世帯実施



デジサポ(総務省テレビ受信者支援センター:全国51箇所)が各々の活動をサポート



I. 停波前(7月23日)までの状況

1. 対策

○辺地共聴、ビル陰共聴、新たな難視の対策工事は終了

○暫定衛星対策

・先方都合や長期不在などを除き対策済み、工事積滞なし。

○低所得者チューナー支援

・従来の郵送申し込みに加えて、臨時相談コーナーで手交も行う。

・申し込み累計 144万

臨時相談コーナーの手交チューナー 7月累計4万

2. テレビ受信機、チューナーの状況

○テレビ受信機

・32型の人気機種や19型、22型の小型を中心に全国的に品薄状態。

○チューナー

・地デジ専用の廉価チューナー(5千円前後のもの)は、一部店舗を除き、ほぼ完売状態。

・チューナー不足にもとづく苦情も多数あり。(2台目、3台目も多い)

→「1台目に限定」し、戸別訪問などを通じてチューナーを一時貸出。

II. 停波の状況

・24日12時に全局(NHK、放送大学学園、民放115局)がブルーバックへ移行。23時59分までにアナログ停波。

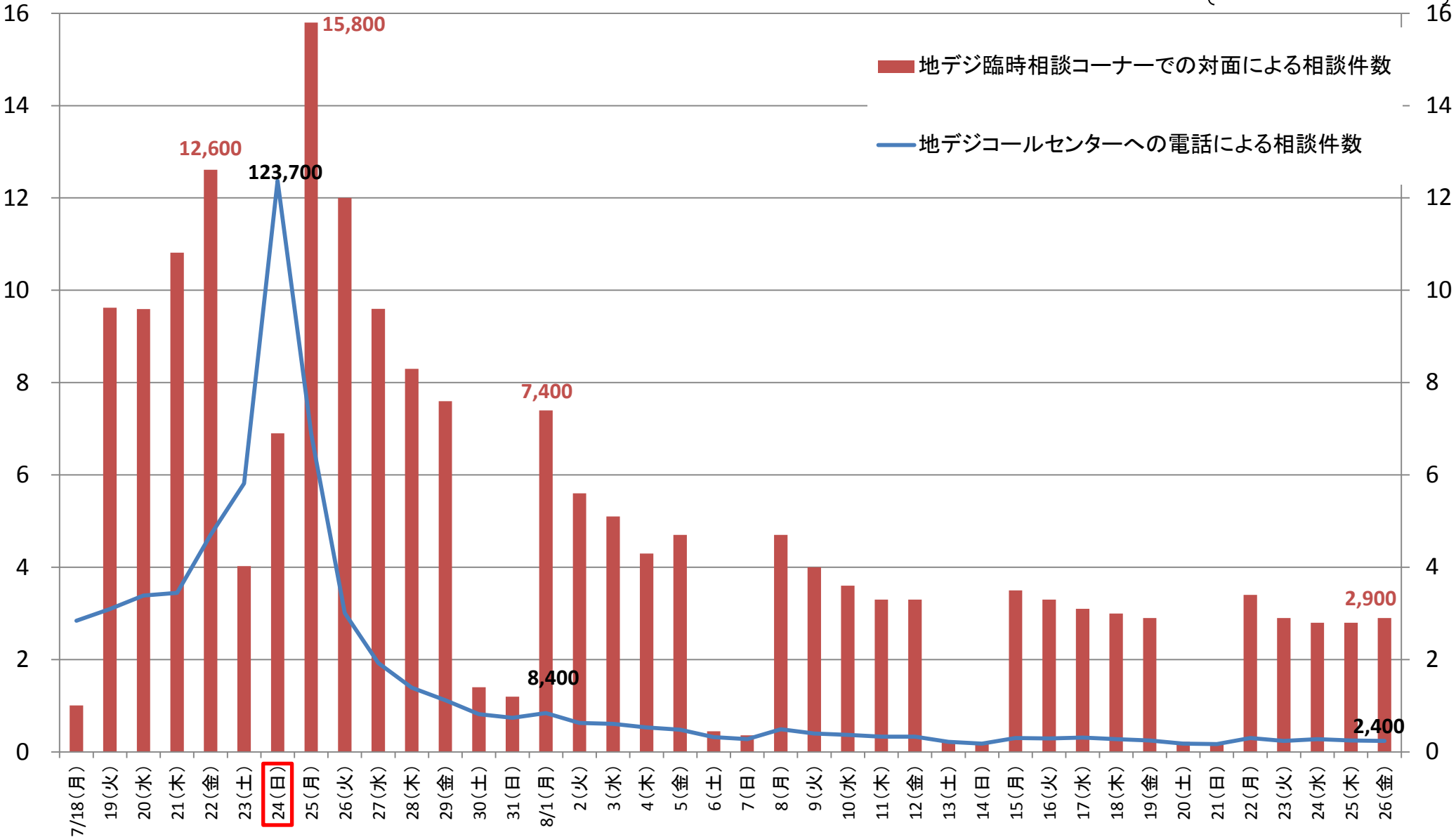
・CATVのデジアナ変換サービス(平成27年3月末まで)

・BSアナログ放送(NHK、WOWOW)も併せて停波

アナログ放送終了前後の相談対応状況(7/24停波に伴う対応)

〔地デジ臨時相談コーナー(千件)〕

〔地デジコールセンター(万件)〕



岩手、宮城、福島各県において、3月31日にアナログ放送が終了。昨年7月24日には44都道府県におけるアナログ放送が終了しており、全国で地デジ化が完了。

1. 停波の状況

電話・対面相談や戸別訪問などは、準備していた体制で滞りなく対応できた。また、チューナー不足等の問題もなく、全体として円滑に推移。

- ・31日12時に全局(NHK、民放12社)がお知らせ画面(ブルーバック)へ移行。
- ・予定どおり23時59分にアナログ停波。

2. コールセンターの対応状況

31日はコール数がピーク(約4700件、前日比約3倍)。お知らせ画面に移行後数時間は、特にコール数が増加。1日に入ってコール数は減少(約1300件、前日比約0.3倍)。

※主な相談内容

- ・チューナーの取付け方など受信機の対応方法の問い合わせ
- ・受信機、リモコン等の操作方法の問い合わせ
- ・一部チャンネルが見えないなどの受信不良に関する相談 など

3. 臨時相談コーナーの対応状況等

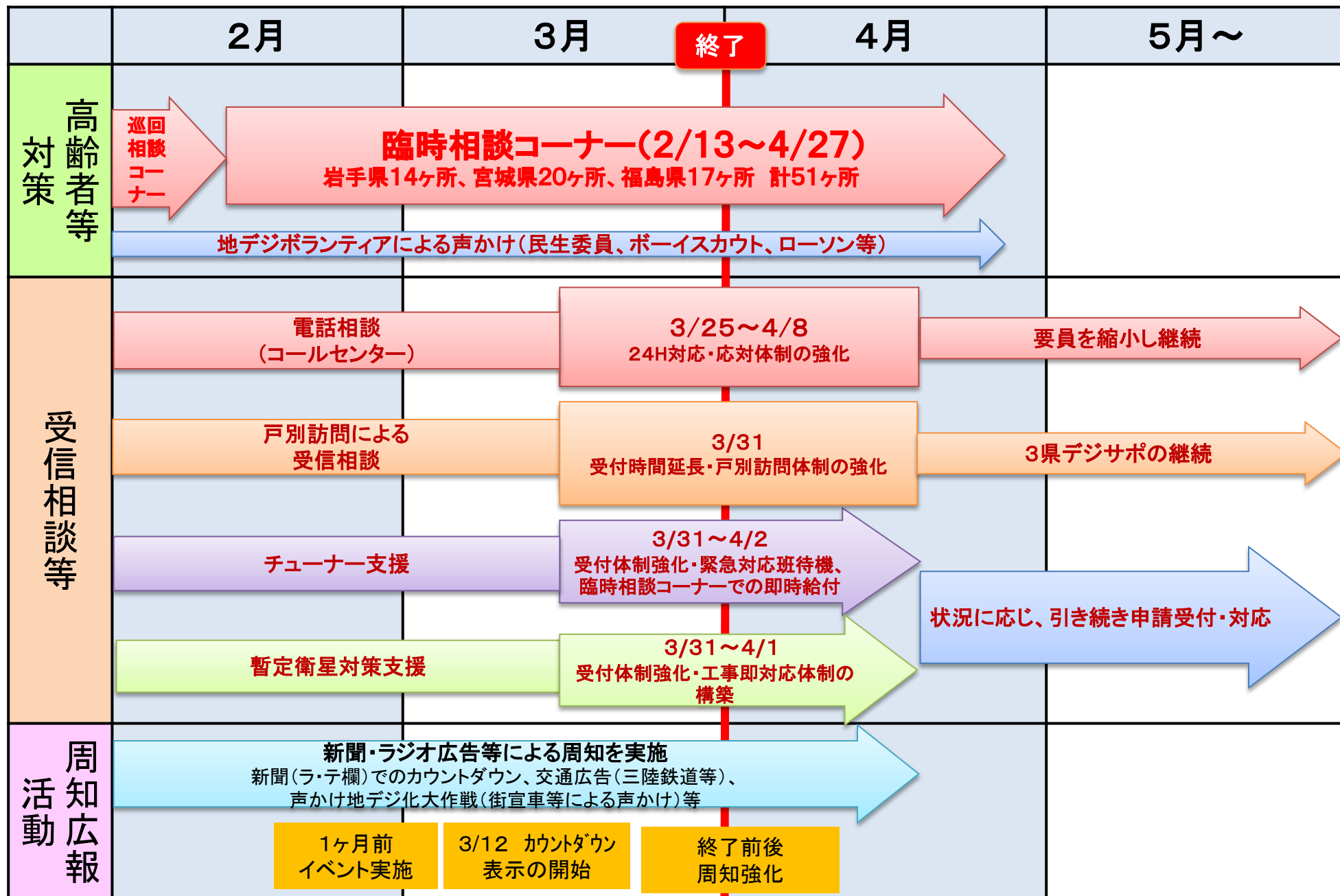
○ 臨時相談コーナー

31、1日は3県で54ヶ所に設置。31日には約500名の方が来訪(前週同日比約2.5倍)。「チューナー支援の申込方法」や「テレビが青くなって映らなくなった」などの相談を受け、チューナー手交約330件、戸別訪問約90件等の支援を実施。1日に入って来訪者は約250名に減少(前日比約49%)。

○ テレビ受信機・チューナーの状況

昨年7月のようなテレビ・チューナーの品薄感はなかった模様。地デジ専用の廉価チューナー(5千円前後のもの)は、家電量販店等に在庫があった。

アナログ放送終了前後の受信者への対応体制(3/31停波に伴う対応)



アナログ放送終了前後の相談対応状況(3/31停波に伴う対応)

[地デジ臨時相談コーナー(件)]

[地デジコールセンター(件)]

